

JAA通信

(Japan Autonomous Academy)
日本自治 ACADEMY 会報誌

Vol.6 2011年11月発行

(ホームページアドレス)

http://japan-a-academy.com/

[発行]

NPO法人 日本自治ACADEMY 北海道下川町西町88番地2(株)谷組内

郵便番号 098-1205

Tel:01655-4-2595

Fax:01655-4-2596

E-mail:info@japan-a-academy.com

Contents

P1 巻頭写真

「富良野の田園風景」

(富良野市)

P2 台湾セミナー開催概要

林 成蔚(リン・チェンウェイ) さん (北海道大学公共政策大学院 特任准教授) 「台湾政治の見方ー中台関係と2012年 総統選挙」

〈内 容〉

I 台湾の政党政治

Ⅱ 2000年以降の中台(両岸)関係

Ⅲ 2012 年総統選について

P9 日本自治 ACADEMY 事業紹介

台湾訪問事業

北海道マップとジャパンマップの制作・配布



富良野の田園風景 富良野市は「へそとスキーとワインのまち」として知られ、清流空知川がもたらす肥沃な土地から多くの農産物が生産されています。これらの農産物からは「ふらのワイン」・「ふらのチーズ」を代表とする数多くの特産品が生み出され、また、四季によって鮮やかに変化する田園風景は富良野を訪れる多くの観光客を魅了しています。 [写真はふらの観光協会提供]

台湾セミナー開催概要

日本自治 ACADEMY では、2011 年 7 月 3 日、北海道大学公共政策大学院の林 成蔚准教授をお招きして、札幌市内で、台湾セミナー~「台湾政治の見方」を開催しました。参加人数は、講師を含めて7名でしたが、日本の政治や行政とはまた違った取り組みなど多くのことを学ぶことができ、大変意義深いセミナーとなりました。林准教授は2009 年に北海道大学に招聘され、この2年間教鞭をとってまいりましたが、この7月末をもって、台湾に戻られました。このセミナーの一端を皆様にご紹介します。

講話要旨

林 成蔚(リン・チェンウェイ) さん (北海道大学公共政策大学院 特任准教授)

「台湾政治の見方」 -中台関係と2012年総統選挙

はじめに(自己紹介)

ご紹介いただきました林(リン)です。今日はお招きいただきありがとうございます。



【自己紹介も兼ねて講話を始める林准教授】 私が台湾にいた時に、ここにいらっしゃる庄

司さんの弟さんと知り合いになりまして、その 時、弟さんは、毎日新聞の台湾支局長でした。 弟さんが、北海道出身であることは知っていま したが、札幌に北大の教授として赴任してきた 時に、弟さんも札幌に戻ってこられて、庄司さんが真剣に台湾の んともお会いして、庄司さんが真剣に台湾の地 方自治の勉強をしたいということで、この2月 下旬に一緒に台湾へ行ってきました。その折り には、中央政府からの補助金が少ないにもかか わらず非常に大きな成果をあげている小さなら 治体を見ていただきまして、非常に参考になっ たとうかがい、私としてもとてもうれしいとこ ろであります。

本日はこのような縁で、庄司さんから是非台湾の話を聞きたいということでまいりました。 早速、自己紹介ですが、私はもともと学者でありまして、東京大学で政治学の博士号をとってから、北大でしばらく教鞭をとっておりました。いろいろと紆余曲折があったんですが、東京に大使館に相当する組織がありまして、日本とは国交がありませんので、大使館とはいいませんが、そこで代表といわれていますが、普通の国では大使ですね。その代表の特別補佐官を1年間、2003年から04年まで勤めておりました。以前は本当に普通の政治学者で、学会では極めて真面目な政治学の論文を発表したりしていまして、政治評論はしないぐらいの研究者でした。

そして 2003 年から 04 年の時には、日本の国会議員との付き合いをすることになりました。日台関係をめぐることでお話をしたり、台湾の実情を理解してもらうことでした。その後、いろんな仕事をしたらどうかということで、台湾に呼び戻されました。台湾は大統領制ですから、大統領府の中には大統領直属の幕僚組織があって、アメリカみたいに国家安全会議というところがありまして、ナショナルセキュリティカウンシル、そういう場所ですが、私はそこでシニアアドバイザーをつとめました。シニアというと年配の方が多くて平均年齢が55歳以上なんですけど、なぜか私一人若僧で当時は37歳ですが、

史上最年少のシニアアドバイザーで、いつも私 はシニアではなくて、ジュニアアドバイザーと 勝手にいっていました。

4年間、そこで幕僚をつとめまして、2008年に民進党政権が選挙で大敗して、台湾では政権交代が起きました。今の国民党政権になったわけですが、その後、党の国際部の部長を1年間つとめまして、2009年の4月にまた縁のあった北大に戻ってきました。それから2年間北大で教鞭をとり、東アジアの国際政治とか、中国の外交政策とかについて担当してまいりました。

非常に駆け足で私の自己紹介をしましたが、 それでは本日の話に入らせていただきたいと思います。本日は台湾政治の話を申し上げたいと思っておりまして、これは、北大の大学院でも申し上げた話なんですが、それのショートバージョンです。台湾についての紹介は省略させていただきますが、台湾は人口約2,300万人の国です。人によっては台湾を国というふうに思っておりません。特に日本政府ですね。戦前は日本の植民地で、1952年のサンフランシスコ平和条約で、台湾をめぐる主権を放棄し、それ以降の台湾の主権の所属は、日本政府は関知しておりませんということです。

ともあれ、本日のお話は大きく三つの部分に 分けています。一つは台湾の政党政治はどうい う軸で動いているか、そして、二つ目は2000年 以降の中台関係ですね、三つ目は2012年の総統 選挙についてです。

I 台湾の政党政治

まず、台湾の政党政治なんですけど、いくつかの問題があるんですが、日本は1971年まで中華民国を本当の中国として承認していまして、72年の田中角栄内閣の時に政府承認を中華人民共和国に切り替えたわけです。中華人民共和国は共産党政権で本当の中国ではないと主張する蒋介石が率いる政党は国民党、彼らは中華ナショナリズムを主張する包括政党です。民主化される前の国会議員は新聞記者などの業界団体や、

日本で言えば経団連や同友会などから選ばれていまして、利益団体から代表が出てくるという制度をとっておりました。それが民主化されてくるわけですが、中国からやってきた蒋介石一派が、中華ナショナリズムの包括政党として、権威主義体制をひいて、当時は言論統制も人権も非常に厳しい状態でありました。私の親戚もそうだったんですが、捕まる人はたくさんおりまして、今の中国よりひどい状況にありました。

それに対して、民主化勢力、反体制勢力がありまして、今の民進党は民主化勢力として、ある意味で反中国ということで、その台湾のナショナリズムを非常に重要視する政党ですから、民主化以降、台湾政党政治はナショナリズムが軸になるわけですね。

民進党は台湾ナショナリズム、台湾が一つの 国だと、それに対して、中国国民党は中華ナショナリズム、台湾という島と非常に大きな中国 大陸を含めてです。ちなみに国民党が主張している中国大陸というのは外モンゴル、今のモンゴル共和国まで含まれるわけですね。

選挙において、外省人、1949 年以降に蒋介石とともに台湾に移住した中国系移民を外省人といいますが、彼らは基本的に国民党にしか票を入れないわけですね。どんな政策をやろうと、国民党は中華民族といっている限り、彼らは国民党を支持します。

ですから国民党は最近では非常に話題になっているんですが、震災を契機に果たして原発は台湾にも必要なのか。ちなみに台湾では原発依存率は18~19%ですね。野党の民進党は以前から核のないふるさとというのが原則の一つですからこれを機に再生可能なエネルギーを作って、原子力発電所を廃止しようといっていますが、ある意味で共感を得る人は多いんですけど、それをやっても基本的には外省人は民進党には票を入れない。彼らは原子力発電に反対しても、民進党には絶対入れないですね。なぜならば彼らがこだわっているのは中華ナショナリズムだからです。

II 2000 年以降の中台(両岸)関係 (二大政党の違い)

では中台関係で民進党と国民党は基本的にどういう違いがあるのかというと、民進党政権は2000年から2008年まで8年間でありましたが、民進党政権は、例えば主権問題に関して台湾の主権をめぐる解釈については、我々は台湾は事実上独立しており、また、民主主義と人権は非常に大切であるとしております。人権は多少違和感があるかもしれませんが、台湾では長く権威主義の時代がありまして、人は平気で逮捕されたりするような時代が長く続いていましたから、人権は非常に重要だということを民進党はいっています。

それに対して、国民党は台湾の主権がどこにあるか非常に曖昧に解釈していて、基本的には世界には一つの中国しかないという原則を受け入れており、彼らは平和と安定、そして経済成長を常に強調します。ですから、安定や平和、経済成長のためには極端にいえば、多少人権や民主主義を犠牲にしても仕方がないという考え方です。

経済に関しては国民党はとにかく中国に対して急速に規制緩和をして、中国経済圏に早く統合することによって、台湾もメリットを得られるとしています。

それに対して民進党はそうではなくてリスク 管理に基づいた規制緩和が必要だとしています。

外交に関しては民進党はもちろん台湾の主体性を強調し、そして日米同盟、これは基本的にアジアを安定させるものと認識していますが、これに対して、国民党は中国との関係は外交政策にとって上位政策で中国との関係は何よりも大切であると考えております。

また、アイデンティティについては、台湾人 意識を民進党は強調し、国民党は中華民族を強 調しています。

(民進党政権の成果と課題)

次に、民進党政権の成果と課題ですが、8年間 の間に路線はぶれるわけですね。最初、中国と の関係はワンサイドワンカントリー、関係ない 国だとしていましたが、2004年には実は平和的 にいろいろできるんではないかということで、 「両岸平和発展委員会」の提案をしたりしてい ました。

民進党は台中関係に割と苦しんでいまして、 融和的な路線をとったり、過激的な路線をとっ たりしてきた時期があったので、これによって 国民には不評でありました。ただ成果もありま した。ひとつは郵便ですね。長い間、台湾と中 国ではなかったんですね。内戦状態でしたから。 それと本格的な経済的な対応なども民進党政権 で実現されました。

課題は、中国人観光客の受入や、乗客の直行便、貨物直行便などは基本的に完結できなかったことです。また、台湾という名で国連に加盟する、これは実質上独立した国家であるということです。ですからそれをやる国民投票を行ったことによって、アメリカのみならず、国際社会の関係が非常に緊張化しました。

要するに、台湾が独立路線をとると、中国があせって武力行使をすると。中国が武力行使をすると、中国が武力行使をすると、みんなにとって迷惑で、真っ先に迷惑をかぶるのは日本やアメリカであるというふうに思われたわけですので、民進党政権は非常に批判を受けました。



【林准教授の講話に熱心に聞き入る参加者】

(馬英九政権)

それに対して、2008年5月に登場した馬英九 政権、ここでは、3つのしないという原則、統一 もしない、独立もしない、武力行使もしないということを標榜していまして、これだとアメリカも中国も安心するということです。

統一しないことについては、台湾内部で統一 したいというのはそんなに多くはありません。 現状維持が大半で、統一しないというのは内部 に対するアピール、独立しないというのは国際 社会と中国に対するアピール、武力行使はしな いというのは、蒋介石一派は1949年、台湾にき てから、40年間、ともかく大陸反攻、要するに、 やがては蒋介石が主導する中国国民党は中国に 戻って、中国全土を支配する、本当の中国を作 るんだ、そのためには、我々は武力行使をして 大陸を攻めるということですね。私も小さい時 にそういう教育を受けました。それは今の国民 党とは関係ない。そういった歴史はどこへいっ たかというぐらい見事に豹変してですね、共産 党と握手してお互い中華民族であるというふう にいっているわけですね。

国民党にとっては、ひとつの中国は中華民国であるということですが、世界のどの国も中国は中華人民共和国で、これは日本を含めての立場ですね。国民党は中国という曖昧なものに対して、こだわりを今の中華人民共和国に対してみせて、それに対して安心させる、要は独立はしないということですね。

民進党は、一つの中国、一つの台湾という概念ですが、国民党政権においては、一つの中国、二つの政府、世界には一つの中国しかない、中国の中には台湾と中国大陸が含まれているということです。

では、台湾にある政府と北京にある政府はどう違うか。それはお互いに話をしないようにしよう、しない方が、一つの中国という大前提を維持できるからです。民進党は中華民国に対するこだわりは全くないので私なんか中華民国という言葉は学問的には理解できるんですけど、感情的には全く受け入れられません。ともかくこれが現状維持ですね。

そして、経済協議についてはある程度透明化

されていますが、政治的な協議は逆に密室化し ています。たとえば、台湾は実は WHO (世界保健 機関)のメンバーではありませんでした。これ は非常に問題であって、2003年にサーズが流行 ったときに、台湾人の観光客が関西を回りまし たが、サーズに感染していることを知りません でした。台湾は WHO のメンバーではなかったの で、リアルタイムで自分たちの疾病の情報も、 WHO からの情報も得られなかったのです。なぜ台 湾はメンバーでなかったか。それは中国が阻止 していたからです。人道的な面を考えてもそれ ではいけないんじゃないかということがいわれ ましたが、中国は関係ないという立場でした。 民進党政権である限り、関係ないということで す。それが国民党政権になった途端、台湾は WHO にオブザーバーとして参加できるようになりま した。

馬英九政権の成果と課題については、成果は、中国との緊張関係の緩和、事実上の自由貿易協定の締結などですが、一方で、台湾の失業率は見かけの数値より増えています。休暇をとらされている人たちは入っていないんですね。また、自由貿易協定によって、台湾経済の自律性が急速に消失することも懸念されています。ともかく、今の政府は中国との経済関係を強化すれば、多くの問題は解決されるんだと言い張っていますが、実際はそうはなっていないわけです。

Ⅲ 2012 年総統選について(政権交代以降の情勢)

では三番目ですが、2012 年の総統選についてお話申し上げたい。まず政権交代してから、今の馬英九政権は、国際社会でも高く評価されています。特に、台湾はアメリカのいうことを気にする国でして、アメリカはご存知のように中東で二つの戦争が泥沼化して、しかも、財政状況はかなり悪化しています。その中東のみならず、世界の様々な場所で、これだけの軍事的支出を維持することができないですから、その中で、台湾海峡でトラブルが起きることになると、

彼らは非常にいやがるんですね。北朝鮮の問題では中国に非常に依存しなければならない部分が増えているにもかかわらず、台湾がトラブルを起こすとアメリカは非常にいやがるんですね。そういうタイミングで民進党政権はアメリカの反発を強く招いてしまったわけですが、国民党の馬英九政権は一つの中国という原則を持っている限り、中国とうまく関係を構築することができますから、そういう意味で高く評価されています。

もう一つは、国際社会とのアクセスは増加しました。WHOのオブザーバー参加できたことも評価されています。

問題といえば、21世紀の政治というのは長い目でみて、政策をやるよりも、その時その時の危機管理能力が課題にされています。特にマスコミが、これだけ発達している社会、次のような問題が常にとりあげられます。

石油価格の引き上げ、例えば、政権が発足する前に、ネクストキャビネットの経済大臣が 3月31日までは値上げしないと発言しました。すると、まわりから、では 4月1日から値上げですねということになって、台湾社会では買いだめがおき、市場価格が上昇し、ブラックマーケットができてしまう。そんな発言をする経済大臣がいるようなところはダメだということになってしまいました。

また自然災害の対応でも、台湾では 2 年前に 大きな災害があって、村が丸ごと消えてしまっ たのですが、首相はそんな厳しい状況にはない と発言したり、総統自身も 3 日経ってから現地 入りし、住民から何ですぐこなかったんだと非 難されたりして、対応が悪く、危機管理は極め てずさんでした。

そして租税問題ですね。台湾では長年キャピタル減税について議論されているんですが、よく冗談で、台湾では一番大きな政党は国民党でもなく民進党でもなく、株党だと。株をやっている国民が非常に多いんですね。その零細投資家、彼らは非常に様々な税制改正に対して敏感

です。遺産相続税なんかでも非常に議論を呼んでいます。

それとアメリカ牛肉の輸入問題では、十分な 議論もなく輸入を再開したのでひんしゅくをか い、今はそれを取りやめたので、今度はアメリ カ側と関係が悪化している状況で、政権は右往 左往しています。

また、死刑執行については、台湾も死刑制度 があるんですが、自分の宗教観から死刑執行を しない法務大臣を任命して、国民の中で議論に なっています。このように、今の政権はガバナ ンス能力が低く評価されています。

また、与党内の不協和音に関していえば、台 湾の場合は、議員内閣制ではないので、国会と 行政府はわかれていて、大臣は、学者だったり、 地方の首長だったりするわけですが、与党の国 会議員は政府がやろうとしていることを批判す るわけです。経済面では、経済成長は著しいで すが、雇用が改善されず、所得格差が広がって います。人権の面では、国民党は政権党になっ てから、国際人権規約を批准し、これは私もす ばらしいことだと思いますが、実際の状況はか なり悪化していて、例えば、2008年10月に中国 の高官が戦後はじめて台湾を訪れた時、民進党 はデモを行ったんです。これは、高官の訪問に 反対するのではなく、台湾には実は国民党の考 え方と違う思いを抱いている人々が相当数いる ということを高官にわかってもらうためのデモ だったんですが、警察当局から弾圧を受けまし た。言論の自由や、報道の自由も今の政権にな ってから悪化し、日本や韓国に比べて人権面で はひどい状況にあるものと思っています。

(五都選挙の分析)

馬政権ができてから、7回の選挙がありました。 うち 5 回は補欠選挙ですが、民進党が勝ってい るのが多いんです。馬英九政権は苦しんでいま すね。

地方の首長選挙についてみると、人口の 60% を占める同種の地域(五都:台北、新北、台中、 台南、高雄の各市)で行われた去年(2010 年) の選挙結果と、4~5年前の(2005年&2006年)を比べると、去年は民進党の方が40万票くらい勝っているんですね。得票率では民進党は49.8%、国民党は44.5%です。4~5年前の選挙では、国民党の方が40万票ぐらい勝っていましたから、それからみると去年は民進党が80万票ぐらい多かったということです。それだけ今は民進党がカムバックしてきています。

実はこの投票結果には、見方は分かれてはいますが、選挙の前日の国民党幹部への銃撃事件の影響があったともいわれています。国民党はこの選挙で大敗するといわれていたんですが、この銃撃事件によって、国民党への同情票が集まり、国民党は大敗せず、要するに、総統でもあり、党首でもある馬英九政権が残ったということです。

選挙に負けると日本でもそうですが党の執行 部はやめさせられるんですね。この選挙で馬氏 は3つの都市をとらなければ党首を辞めざるを 得ませんでした。もちろん大統領(総統)はや める必要はありませんが。そうなるとますます 政府は党の路線と乖離してしまって彼の再選に とっては非常に不利になります。この銃撃事件 で彼は救われるんですね。

去年(2010年)の選挙をみると、民進党は無党派層などいわゆる中間選民の掘り起こしにある程度成功したと考えています。ただ民進党にとっての最大の問題は対中政策です。中国はとにかく一つの中国を認めない限り、民進党とは協議はしないという立場です。輸出の40%、対外投資の70~80%を中国に集中している中で、中国と協議しないと政権運営はできません。そこを民進党はどうするのか。これは本当に最大の課題ですね。

(与党後退、野党躍進の課題)

次に与党後退についてですが、先ほどから申 し上げている与党の危機管理などガバナンス能 力への疑問、それと今の政権での雇用なき成長、 10%を超える成長であっても国民は不満を持っ ています。野党として考えていかなければない のは、キーは雇用ですね。

また、野党躍進のためには野党の変化が必要ですね。そこで民進党は新しい選挙戦術を取り入れました。選挙キャンペーン戦略の調整や、政党イメージの改善、インターネットの多用などです。今、若い人たちの投票率が低いんですよ。若い人たちの関心をつかめば自分たちにとって、新しい票を掘り起こすということになります。民進党が2010年の五都選挙に使ったコマーシャルは若い有権者に非常に好評でした。

(総統選・国会選挙のダブル選挙)

来年の1月14日は総統選挙だけでなく、国会 総選挙と合併して行われる史上初のダブル選挙 なんです。国民党の総統候補は馬英九、副総統 候補は現役の行政院長である呉敦義です。民進 党の総統候補は党首である蔡英文、女性で、弁 護士、大学教授です。もとは国家安全会議のシ ニアアドバイザーでした。副総統候補はまだ決 まっておりません。

実は、選挙は1月14日なんですけど、憲法の 規定によって総統が就任するのは5月20日です。 選挙が終わって就任するまでに4ヶ月の空白が あるんです。普通の国でも問題なのに、台湾の ような国ではもっと問題です。要するにこの4 ヶ月の間に中国は何をするのか。今の政権は再 選を果たすから問題ないといっていますが、1年 の1/3、これから政権を降りようとする人が国を 仕切っていくのは非常に問題だと思います。

これまでは、全部 3 月に選挙をやっていたんです。彼らは、2008 年も同じ状況であったのに、今回はそれを主張しなかった。政権与党の表向きの理由は、資源の節約、3ヶ月以内に全国レベルの二つ行うのは、資源の無駄使いといっています。でも実際の理由は、旧暦の正月の直前、中国にいる台湾のビジネスマンがもどってきます。その数は40万人で、その7割が国民党支持です。また、国会議員の選挙が先に終わると、すでに当選済みの国会議員は総統選挙のために動いてくれないという事情もあります。なお、野党民進党が断固とした抵抗をしなかったのは、

民進党の地方組織が相対的に弱いこともあり、 ダブル選挙によって、投票率が上がり、議題の 設定や、無党派層の取り込みなどが巧みである 民進党にとって、有利である可能性もあるから です。

(現在の各種世論調査)

では、今は誰の方が有利なのか。総統候補が 決まってからの世論調査をみると、台湾で最も 人気のある日刊紙、政治的には中立で、発行部 数は約50万部ですが、この日刊紙の6月中旬の 世論調査では、蔡英文の方が勝っています。ま た、遠見雑誌というのは国民党寄りのオピニオ ン紙ですが、この雑誌の5月の調査では、支持 率は馬英九が上ですが、予想得票率では蔡英文 の方が上回っています。ここで支持率の調査で は態度を表明しなかった人が25%ぐらいいて、 ここには政党支持を打ち出したくない民進党支 持者が多いといわれています。それで予測得票 率では蔡英文の方が勝ってしまうわけですね。 TVBS という国民党寄りのテレビ局の 6 月中旬の 調査でも、蔡英文が支持率では 5 ポイント負け ていますが、予測得票率では蔡英文の方が勝っ ていますので、今回の総統選は民進党にとって 有利である可能性も否めません。

(総統選のイシューと今後の展開)

次に、総統選の争点となるのは、ひとつには 雇用と社会セーフネットです。民進党はこれに ついて国民党を攻めようとしていますが、まだ 具体的な内容は示されておりません。もうひと は、原子力発電問題です。民進党は2025年まで に現在4基ある原発を全廃するといっています。

それで、今後の展開についてですが、国民党はひとつの中国ということで攻めてきます。中国との緊張関係は緩和できるからまかせるしかないということです。また、実質的な経済貿易は中国に依存し、外向的は、中国とは平和的に、日本とは友好的にやっていくということです。社会保障制度については絆創膏方式で、何か問題が起きたら対応していくとしています。

一方、民進党は雇用で攻めて、社会保障、環

境問題、所得の格差などの問題を積極的にとり あげていきます。

そして、民進党政権にとっては、対中関係は 守りとならざるを得ませんが、その中国共産党 の最近の台湾工作の大原則は、武力行使するよ りも台湾を買った方が安いというものです。で すから、中国は全面的に経済交流を推し進めて きています。中国は大規模な買付団を台湾に送 り込んでおり、その規模は一度に千人、飛行機 で5台、この4月には1度の買付団だけで60億 円の商談をまとめて帰っていきました。その勢 いは、南部地域に強い民進党の牙城までにも及 んでおり、民進党支持を瓦解させたいと、高雄 まで入ってきています。

(最後に一予測として)

最後になりますが、今回の総統選に関しては ナショナリズムをめぐる議題が多少後退します が、台湾では、それにとってかわる軸は、成長 と安定(国民党)なのか、分配と環境(民進党) なのかまだ明確ではありません。

また、三者(中国、国民党、民進党) それぞれ問題を抱えていますが、中国の経済力を糧に、 国民党が有利な状況で、選挙戦が展開されるのではないかと考えております。

本日は、このような講話の機会を設けていただきました皆様方に感謝を申し上げます。私は、この7月を持ちまして、北大を去り、台湾に帰りますが、皆様方の台湾へのお越しを心からお待ち申し上げております。



【講話の後、林准教授を囲んでの記念撮影】

日本自治ACADEMY事業紹介

台湾訪問事業

(はじめに)

当 ACADAMY では、今年(2011年)2月20~24日の日程で台湾を訪問し、中央政府並びに地方政府の財政事情や地域振興について学んできました。参加者は谷理事長、角井副理事長、庄司会員の3名。

この訪問では、地方自治体である嘉義(カギ) 県や宜蘭(イーラン)県への訪問、台北市内で 開催された北海道大学公共政策大学院と台湾の 民進党系シンクタンクとの共催で開催された 「国際シンポジウム」への出席、そして各種施 設の訪問・見学など盛りだくさんの内容となり ました。

ここでは、嘉義県と宜蘭県の訪問内容を中心にご紹介します。

(嘉義県の財政状況)

嘉義県は台湾中南部に位置し、台北市から新 幹線で1時間20分ほどのところにあります。訪 れた県庁舎では簡(カン)財政総務局長から、 県の財政状況などについて、お話をいただきま した。嘉義県は人口約55万人、主産業は農業で 3人に1人は農業者です。

県の財政状況については、中央政府からの補助金と分配金を合算すると全歳入の約6割にも及び中央に依存した財政構造になっています。また、歳出のうち、約5割が人件費となっていて、歳出を圧迫しているとのことでした。簡局長は、今後に向けては省エネをはじめとした財政支出の削減に努力するとともに、人件費などの抑制を図っていきたいと強調していました。また、県内には18の自治体がありますが、それぞれ財政的に厳しいので、工夫をこらしながら中央政府への要望や提案を行っていくことにより、補助金などを確保していくことが不可欠であるとのことでした。



【嘉義県の簡財政局長(左から2人目)との記念撮影】 (宜蘭県の知事との懇談)

宜蘭県は、台湾北東部に位置し、台北市から アジアで一番長いといわれている「雪山トンネル」を抜ける高速道路で1時間ほどのところに あります。人口約46万人、農業が盛んで、肥沃 な土壌が広がっている蘭陽平野では、お茶の栽培が行われています。訪問した県庁では、林(リン)知事との懇談の場も設けていただき、県の 財政事情や文化振興、さらに産業情勢などについて、詳細な説明を受けました。



【林知事(右端)との懇談】

特に、文化と観光振興として取り組まれている「宜蘭国際児童芸術祭」については、1996 年から 15 年近くも続いている催しで、世界各地の民族の踊りなども演じられるもので、40 数日間に渡って繰り広げられる宜蘭最大のイベントでもあります。

このイベントには、国内外から数十万人の人 たちが訪れるとのことですが、海外からの観光 客はまだ 5%ほどなので、今後は台湾国内はもちろんのこと、海外に向けての広報や営業活動を活発化させていきたいと林知事が熱く語っていたのは印象的でした。

(結び)

今回の台湾訪問では、中央と地方政府の間に存在する財政上の課題や、地方が頑張ることに対して中央が支援していく仕組みなど、多岐にわたる政策を知ることができました。また、その政策立案や制度設計を施すにあたっては、日本の政治や行政を参考にしているとのコメントがどのセクションでもあったところであり、日本としても、先進的な取り組みをしながら、国際的により信頼される国家としてのスタンスをとっていかなければならないものとあらためて認識しました。

最後に、今回の訪問に際しては、この7月に 開催した「台湾セミナー」の講師である北大の 林准教授に行程やアポイントの手配など大変お 世話いただき、感謝を申し上げます。

北海道マップとジャパンマップの制作・配布

当 ACADEMY では 2008 年度から、北海道マップをはじめとした各種マップづくりに取り組んでいるところですが、2011 年度においてもこの 6 月中旬に制作を終え、道内の小学生(北海道マップ:3年生、ジャパンマップ:5年生)にも配布し、活用していただくことになりました。

この配布事業については、「北海道の子ども応援プロジェクト」にも位置づけられ、北海道教育委員会と連携し、14の教育局を通じて各市町村の教育委員会に配布をさせていただきました。

また、制作した 3 種類のマップにつきましては、一般の方には当 ACADEMY の事業にご協力をいただくという趣旨でラミネート加工をしたものを販売いたしております。ご購入を希望される方は事務局までお問い合わせください。 1部200円ですが、送料や封筒代金の関係上、5部単位(1,000円)からの販売となりますのでご留意

ください。

(制作した3種類のマップ: A4版)

- ①「2011 年版北海道マップ 179」(表面:市町村区域図、裏面:面積及び人口)
- ②「2011 年版北海道マップ 179」(表面は①と同、裏面:特産品と観光スポット、北海道遺産)
- ③「2011 年版ジャパンマップ 47」(表面:全国 47 都道府県区域図、裏面:工業出荷額、農業生産額、漁業生産額、食料自給率)



【上記写真は①「2011 年版北海道マップ 179」】 問い合わせ先(日本自治ACADEMY事務局) 〒098-1205

下川町西町 88 番地 2 (株) 谷組内 tel:01655-4-2595 (月~金 9:00~17:00) fax:01655-4-2596

e-mail:info@japan-a-academy.com

【編集後記】2011年3月の東日本大震災から8ヶ月が過ぎました。被災された方々の思いを大切にしながら復興に向けた取り組みが進んでいくことを期待しています。個人としては東北の友人を通して息長く支援出来ることを続けていきたいと思っています。◆さて、今回のフリーペーパーは2月に台湾を訪問した報告と、7月の台湾セミナーで講師を引き受けて下さった北大の林(リン)先生の講話内容を掲載しました。本年8月リン先生は台湾へ帰国されましたが、私達アカデミーのメンバーは台湾の現状を深く知る貴重な機会を得ました。リン先生に感謝・感謝です。◆また、例年開催していますフォーラム「アジアと北海道のつきあい方」のパートIVは2012年2月に実施予定です。詳細が決まりましたら改めてご案内しますので多くの方にご参加いただきたいと思っています。

(編集責任者:副理事長 角井)